

TLAニュース VOL.24

<http://www.tl-academy.com>

東京都新宿区西新宿8-14-17 アルテール新宿301

03-6416-0251



今回は、東京外語大学でタイ語を学び、現在国際協力NGOの一般社団法人国際センターで活躍されている奥野マミさんにお話を伺いました。ちなみに、奥野さんは東京外語大学でのスニサー先生の教え子であり、TLAの上級コースにも時折参加されています。

■タイ語との出会い

-そもそも、なぜタイ語を勉強しようと思ったのですか？

通っていた高校には珍しく国際学科というクラスがあり、私はそのクラスで勉強していて、将来はフランス語をやりたいと漠然と考えていました。でも、ある方のお話を聞く機会があって目標というか方向が自然と変わったのです。

-その、お話とは？

国際学科には外部の方を招いてお話を聞く授業があって、インド人とかとにかくいろいろな方が、私たちの知らない世界のお話をして下さるのです。その中で、偶然タイで出家された日本人の方のお話を聞く機会があり、タイに興味を持つようになりました。それと、当時新聞やテレビでタイの少女売春のニュースが流れていて、自分にも何かできればと思ったりしていて、そうしたこともあってフランス語は止めることにしました。勉強するならアジアの言葉。それもタイ語ということに。

-それでスニサー先生に出会ったのですね。

ええ、そうです。

-最初の印象は？

うーん、まだ若くて、可愛い感じで、大学院生のアシスタントかなと思っていました。でも、講義を始めたのでビックリしました。先生だったのです(笑)。

■タイで日本語教師のボランティア

-ボランティアで日本語教師を経験したとか？

はい。大学の2年を終えた時に、スニサー先生に紹介していただき、イサーンのノーングブウワンブー県(จังหวัดหนองบัวลำภู)にある学校に1年間行ってきました。ウドンターニー県(จังหวัดอุดรธานี)とルーイ県(จังหวัดเลย)の間にある県です。



-どうでした？

1日5時間ぐらい教えるのですが、こちらは二十歳そこそこですから、生徒からすると先生と言うよりは友達と言う感覚が強かったようです。遊びに行こうなんて誘われましたが、最初の頃は断っていました。でも、慣れてからは生徒たちと一緒に映画を見に行ったり、生徒の誕生会に誘われたりと楽しかったです。

-それは良い思い出ですね

ええ。でも、当時の思い出で言うと、隣に住んでいた社会科の先生のご家族との出来事の方が印象深いです。先生の奥様と子供が、勝手に私の家に入ってくるんです。そういう生活に慣れていないので、最初はとても嫌でした。鍵をかけても子供が窓から入ってくるし、どうすることもできませんでした。もちろん、悪気の無いことは分かって



いました。いつも、笑顔を絶やさないう、いろいろ心配して声を掛けてくれるし。でも、嫌な顔を見せたと思うので、後になって申し訳ないと後悔しました。

-ずっとそうした生活？

いいえ。嫌だと思ったのは最初の頃だけです。タイでの生活に慣れるにしたがって、それが普通だと思えるようになりました。先生の奥様からは食べ物をいただいたり、結婚式があるから一緒に行こうと誘われたり、言われるままについて行ったら葬式だったり、いろいろ経験させていただきました。知らない場所に行ったり、知らない多くの人たちと接することができたのも奥様のおかげです。私にとっては忘れることのできない人です。

-貴重な体験ですね。

はい。とても。

-日本語を教えに行ったのですが、タイ語の勉強はどうでしたか？

タイ語の勉強だけなら日本でもできると思います。行って良かったことは、やはり一緒に生活しなければ分からないことが経験できたことです。こればかりは本を読んでも理解できませんから。それと、大学の卒論はイサーンの経済について書きましたが、ノーングブウランブーでの1年間の経験はとても役に立ちました。

■NPOに転職

-現在NGOで活躍されていますが、卒業後にすぐ入られたのですか？

いいえ。最初はある損保会社に入りました。バンコクにも事務所があるので、機会があれば転勤できたらと思っていましたが、仕事と私の生き方が合わな

いと感じて2年ほどで退社しました。その後、国際センターの職員募集を知って応募したのです。

-国際センターではどんな仕事を？

国際センターは、経済的に苦しくて学校に行けないラオス、カンボジア、タイの子供たちを支援しています。具体的には、ガルニー奨学金という奨学金制度を設けて個人や企業などから奨学金を集め、現在までに、延べ30万人の子供たちにその奨学金を届けています。他にもラオス小学校建設事業とか、研修旅行事業など国際協力NGOの活動をしている団体です。私は、ここでこうした活動を進めるための、様々な業務を担当しています。

-タイにも行かれるのですか？

はい。年に3~4回ぐらいでしょうか。研修旅行でドナーの方をお連れすることもあります。

-ドナー？

奨学金提供者のことです。国際センターでは「支援している奨学生に会いたい」「どんなところで生活しているか見てみたい」といったドナーの希望に応えるため研修旅行を行っています。現地の子供たちを取り巻く環境を理解していただくことも大切ですから。

-ノーングブウランブーにいた頃にもお手伝いしたことがあるとか...

ええ、そうなんです。国際センターは、バンコクにThe Education for Development Foundationという事務局を置き、日本からやってくるドナーの方々を現地にご案内する仕事もやっています。ただ、ドナーの方は皆さんタイ語が分からないので、タイの方とのコミュニケーションを手助けする人が必要になります。偶然ですが、そのお手伝いをやらせていただいたことがあったのです。

-ということは、今の仕事も学生時代からの縁なんですね。

そうですね。少し、回り道しましたが、私にはやりがいのある仕事です。皆さんも、もしよろしければドナーになっていただけると、とても嬉しいです。

-有り難うございました。

一般財団法人国際センター
<http://www.minsai.org/>

かなり前になりますが、スニサー先生もドナーの研修旅行に通訳として参加した経験があるそうです。さらに、スニサー先生は国際センターと連携して、ボランティアのタイ語講座をこれまでに数回開催してきました。タイ語講座に参加する方々は授業料を支払いますが、講座で使う教材のコピー費などの実費を除き、残りのすべてを奨学金にあてています。6年前にこのタイ語講座に参加したのが縁で、現在でもTLAでタイ語を勉強している方もいるそうです。